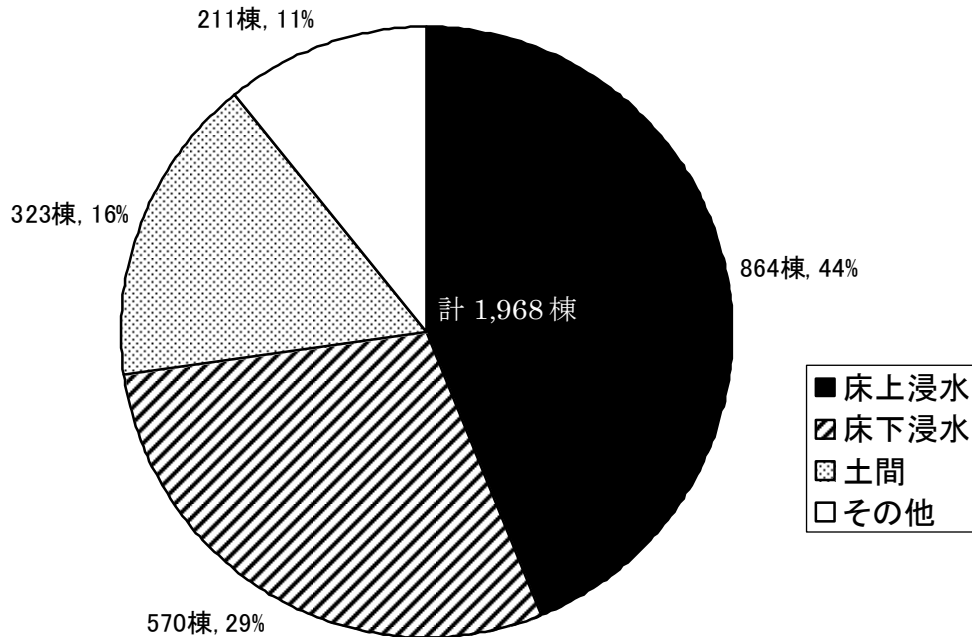


## 2. 都市計画上の水防の考え方

### (1) 水害による被害発生状況

#### ① 被害の規模

9月4日集中豪雨被害地域における建物の被害状況調査（速報）<sup>注4</sup>によると、被害地域の内、床上浸水 864 棟（44%）、床下浸水 570 棟（29%）、土間上浸水 323 棟（16%）、その他 211 棟（11%）、計 1,968 棟である。



被害状況	棟数
床上浸水	864
床下浸水	570
土間	323
その他	211
計	1,968

グラフ 3-1 9月4日集中豪雨被害地域における建物の被害状況

<sup>注4</sup> 被害状況については調査中であり、確定値ではない。

また、本データは被害を受けた建物の棟数を把握したものであり、被害を受けた世帯数とは一致しない。

#### ② 被害発生地域の特徴

浸水被害の発生した地域は密集した戸建住宅地が中心である（図 3-6 参照）。

浸水被害の発生した地域の地下室のある建物について被害状況を調べた調査（杉並区建築課調べ）では、被害建物の約 7 割が戸建住宅となっている。共同住宅も併せると住宅系の土地利用が約 9 割を占めている。善福寺川を中心に、区内河川の上流部中心に浸水被害が多く発生した。また、今回の災害では、従来、想定していなかった場

所で、散在的に内水による浸水被害が発生している。

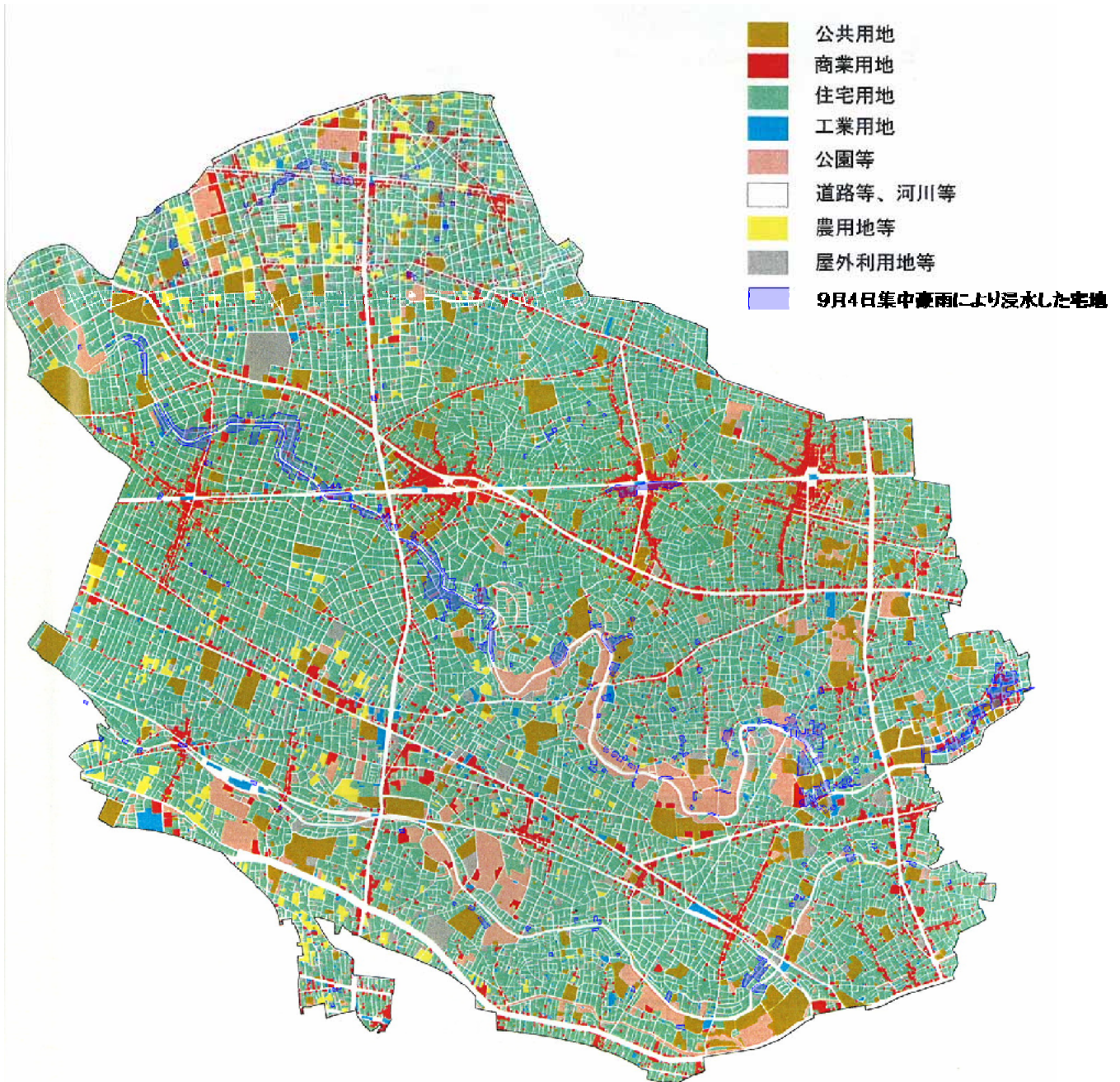


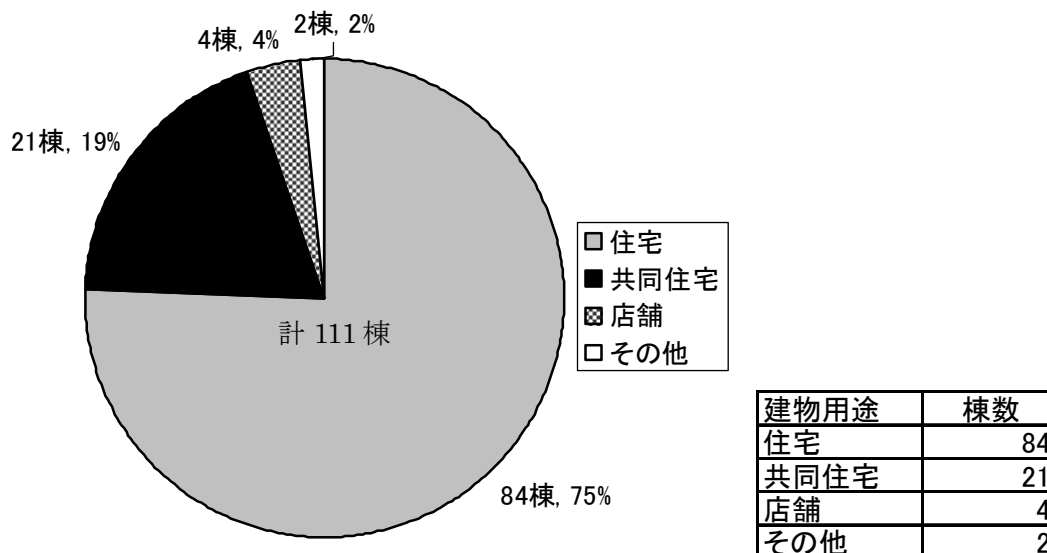
図3-6 9月4日集中豪雨被害地域とその土地利用

(出典: 杉並区防災都市づくり(基礎)調査報告書、平成12年)

### ③ 床上浸水被害を受けた建物の特徴

#### 1) 床上浸水被害を受けた建物用途

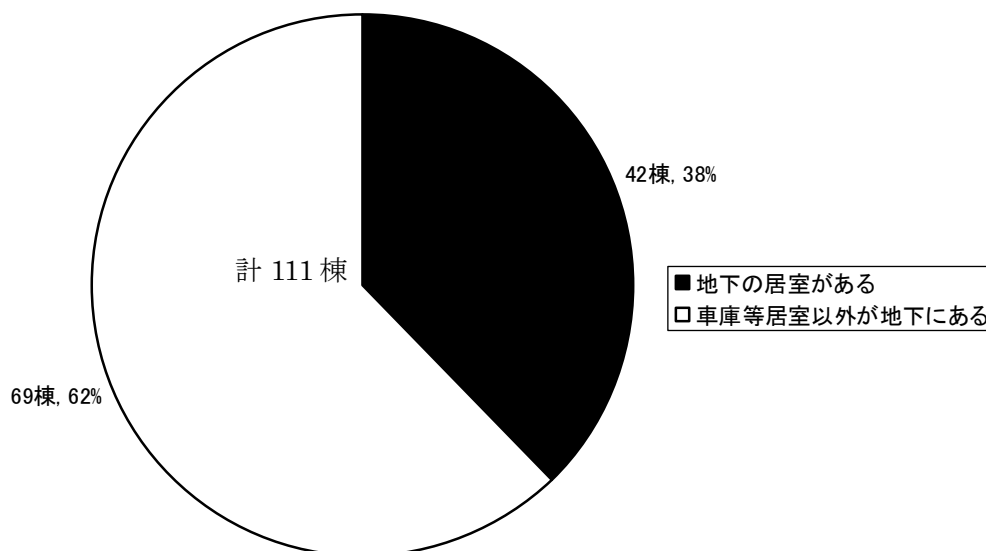
床上浸水をした建物（地下室あり）のサンプル調査（111棟）では、94%(105棟)が住宅系（住宅、共同住宅）である。



グラフ 3-2 地下室を有する床上浸水した建物の用途内訳

#### 2) 床上浸水被害を受けた建物の浸水場所

床上浸水被害を受けた建物（地下室を有する）の内、42棟（38%）には、地下の居室があり、急速な内水氾濫に対して、危険な状況にある建物があることが明らかになった。（グラフ 3-3 参照）



グラフ 3-3 地下室を有する床上浸水した建物における地下居室の有無

データ出典：杉並区建築課